

令和7年度

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園・学校番号	1355414
施設名（園名等）	聖愛幼稚園

1. 活動のテーマ

テーマ：桜

テーマの設定理由：園庭には樹齢五十年以上の桜の木が四本あり、四季を通して子どもたちの身近に存在している。日常の遊びの中で桜に関心を示す姿をさらに広げ、自然と関わる中で季節の移ろいや生命の循環に気づく感性を育てるため、本テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

時期	活動内容
6月	桜の枝・葉の観察、虫眼鏡等を用いた描画活動
7月	桜の木全体の観察、マイクロスコープでの細部観察
9月	葉や木片の色づくり、色水遊びによる色彩探究
10月	共同制作による大きな桜の木の表現、樹液の採取・観察
11月	葉の観察、根への関心を深める活動
1月	土の中の根のイメージを描く活動
2月	作品展示・共有、樹液の成り立ちを考える活動

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- 子どもたちが興味に応じて自ら選べるよう、以下の環境を整備しました（※本事業の経費を活用した物品を含みます）。
- 観察・探究ツール：虫眼鏡、デジタル顕微鏡、マイクロスコープ、ライトテーブル、デジタルカメラ
- 表現素材：画用紙、模造紙、絵の具、筆、色鉛筆、アルミ大皿、画板
- 環境設定：剪定した枝葉や落葉、採取した樹液を保育室に持ち込み、いつでも観察・実験ができるコーナーを設置。



4. 探究活動の実績

活動の内容：幹や葉を観察しながら模造紙に桜の木を共同制作したり、絵の具を混ぜて葉の色の違いを再現したりしました。さらに「木の下には何があるのか」という問いから、見えない根を想像して描く活動や、樹液の不思議を探る活動へと発展しました。

活動中の子どもたちの姿・声：「葉っぱの色は一つじゃないね」「木の下でもつながっているんじゃない?」「近くで見るとキラキラしてる」など、観察を通して気づきを言葉にする姿が見られました。

子ども同士や教諭との関わり：友達の意見を聞いて自分の絵に描き加えたり、自分の考えを説明しようとする姿が見られました。教諭は子どもの「なぜ?」を大切に、一緒に不思議がる姿勢で関わりました。

5. 振り返り（先生の気づき）

CEDEP（東京大学 発達保育実践政策学センター）の講師とのオンライン会議を通じて振り返りを行いました。子どものつぶやきをどう受け止め、次の問いに繋げるかという助言を受け、教員の声かけの引き出しが広がりました。この学びは日常の保育においても、子どもの主体性を尊重する関わりとして生かされています。